

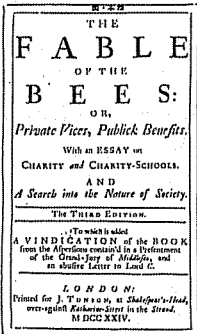
お宝紹介！ 第2回 名古屋大学附属図書館 コールリッジが所蔵した

『蜂の寓話』

中井えり子

名古屋大学中央図書館貴重書室の展示ケースの中には、1724年刊のマンデヴィル¹⁾ (Bernard Mandeville, 1670頃-1733) 著の *The Fable of the bees* (『蜂の寓話』) 第3版²⁾ がひっそりと置いてある。その横には中日新聞と名古屋大学附属図書館報の記事のコピー、ペン書きの英文のはがき、それとタイプ打ちの英文の手紙も添えられている。

1 『蜂の寓話』



この *The Fable of the bees* は『蜂の寓話：私悪すなわち公益』という書名で邦訳がある(法政大学出版局 1985-1993)。個人の欲望に根ざす悪徳こそが社会全体の利益になるという説が書かれ、18世紀に論争の種となった書物であり、アダム・スミスに影響を与えた著作とされる。しかし、初版は1705年に出版されて

▲タイトルページ
 しており、本学所蔵本の第3版が特に珍しいものでもない。当館では同書の第2版も所蔵しており、NACSIS Webcatで、18世紀に刊行されたこの本のいくつかの版本を国内でも複数の大学図書館が所蔵していることがわかる。

2 名古屋大学所蔵の『蜂の寓話』

実は名大所蔵本は英国の詩人で批評家であるコールリッジ¹⁾ (Samuel Taylor Coleridge, 1772-1834) が所蔵していた本で、その遊び紙に彼自らが『蜂の寓話』を批評した16行のメモ<写真参照>を書いている。しかし、彼の没後100年(1934年7月25日)から生誕200年(1972年10月21日)の記

念行事にいたっても本書の行方がわからず、イギリスのみならず、アメリカやカナダの研究者が探し回ったが行方不明だったのである。

ところが、この『蜂の寓話』はまさに生誕200年祭が行われた年の12月に名古屋大学中央図書館に受け入れられ、12月1日の中日新聞紙上で、元名古屋大

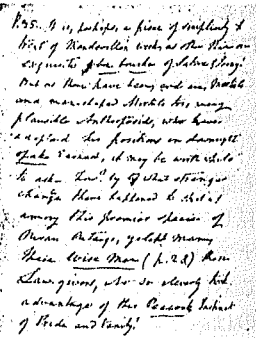
学附属図書館長の加藤龍太郎教授による「コールリッジの書き込みがある奇本『蜜蜂物語』』という記事が大きく取り上げられた。また名古屋大学附属図書館報「館燈」No.15 (1973.2.15) に水田洋名古屋大学名誉教授(当時経済学部教授)が、「蜂の寓話のコールリッジ所蔵本」と題して、世界に一つしかない原資料である所以を述べておられる。

これら二つの記事と展示ケースの手紙類を基にして、『蜂の寓話』の足取りを紹介したい。

3 コールリッジ所蔵本『蜂の寓話』の行方

コールリッジの蔵書は遺言執行人であったグリーン (Joseph Henry Green, 1791-1868) に託され、『蜂の寓話』は何年か彼の所蔵となる。事実、名古屋大学所蔵本の表紙裏に、グリーン蔵書の蔵書票が貼ってあることから確認できる。

その後なぜかこの本は1880年にロンドンで競売にかけられ、ボズウェル・ストーン (Walter George Boswell-Stone, 1845-1904) の手にわたる。



▲名古屋大学付属図書館所蔵 *The Fable of the Bees*, 3rd ed. (1724) の遊び紙に書かれたコールリッジ自筆のメモ書き

コールリッジの書誌³⁾を準備していたヘイニー(John Louis Haney, 1877-1960)は、ボズウェル・ストーンが*Notes and Queries*誌に自分はコールリッジの書き込みのある『蜂の寓話』を持っていると書いたわずか2行の投稿記事⁴⁾を見つけて、コールリッジの書誌に掲載したいと思い、その由来を知りたい旨の依頼文をボズウェル・ストーン書いたのである。これが冒頭に書いた「ペン書きの英文のはがき」である。

その20年余り後の1924年刊行のケイ(Frederick B. Kaye)による『蜂の寓話』の校訂版は、マンデヴィルに言及した執筆物が掲載されているが、年代記載なし分としてコールリッジが『蜂の寓話』の遊び紙に書いた批評文も載っている⁵⁾。ケイはヘイニーが作成したコールリッジの書誌のことを知っていたらしく、校訂版の出版社クラレンドン・プレスのニュー(R. H. New)に何とかしてこの書き込みの写真か写しを入手したい旨の依頼をし、ニューは当時ストーン家の当主であったクリストファ・ストーンに協力依頼の手紙(1922年6月15日付)を書いたのである。これが冒頭の手動タイプによる英文の手紙である。

ところがこの10年後のコールリッジの没後100年にはこの版本はすでに行方不明になっており、生誕200年祭に至っても発見できなかったのは上述のとおりである。ではなぜこの行方不明本が今名古屋大学にあるのか? 「館燈」の水田教授の記事によれば、マンデヴィル批判を含むスコットランドの道徳哲学の著作を買ったことがあるスコットランドの古書店から、この版本のオフナーがあったということで、たまたま水田教授と取引のあるデュヴァル(Duval)というこの古書店からはるばる名古屋大学へ来たのである。前述のボズウェル・ストーン*Notes and Queries*誌の投稿記事のコピー、ヘイニーからボズウェル・ストーン宛のはがき、およびクラレンドン・プレスのニューからクリストファ・ストーン宛の手紙も一緒であった。

4 1972年12月以降

加藤元館長の新聞記事は、コールリッジの生誕200年祭に際して、カナダのコバーン教授(Kathleen Coburn)が新しい全集の決定版を刊行中であることと、ストーン家からどんな経路でこれがスコットランドへ行ったかを明らかにしたいとい

うところで終わっている。

コールリッジの全集は1969年から*The collected works of Samuel Taylor Coleridge*というタイトルで順次刊行され、*Marginalia*⁶⁾の第3冊(Princeton University Press, 1985)の811頁にコールリッジの『蜂の寓話』批評が1924年以来再び翻刻されたのである。詳しい書誌記述とともに所蔵がNagoya University Libraryと明記されている。ここによくやく名古屋大学附属図書館がコールリッジの書き込みのある『蜂の寓話』を所蔵していることが、世界中のコールリッジ研究家に知られることとなった。

しかし受入当時、1924年以降のこの本の足取りの調査はされなかったようだ。本稿執筆にあたり、水田教授からインド在住のデュヴァル氏に入手経路を尋ねていただいたが、サザビーズかクリスティーズのオークションで入手したような気がするという返事で、確かなことはわからなかった。誠に残念である。

(注)

- 1) 以下マンデヴィルとコールリッジの表記は引用部分を除いて『岩波西洋人名辞典』によった。
- 2) Mandeville, Bernard. *The Fable of the bees: or, Private vices, publick benefits, with an essay on charity and charity-schools, and a search into the nature of society, to which is added, A vindication of the book from the aspersions contain'd in a presentment of the Grand-Jury of Middlesex, and an abusive letter to Lord C.* 3rd ed. London: Printed for J. Tonson, 1724. [14], 477 p. 20 cm. (8 vo)
(所蔵事項:名古屋大学中央図書館 ホブズ・コレクションⅢ 1985年度貴重図書指定 登録番号 483246)
- 3) Haney, John Louis. *A bibliography of Samuel Taylor Coleridge.* Philadelphia, Printed for private circulation, 1903.
- 4) *Notes and queries: a medium inter-communication for literary men, general readers, etc.*
9th Ser. No.10 (Sept.20, 1902) p.231に掲載。
- 5) Mandeville, Bernard. *The fable of the bees, or, Private vices, publick benefits. With a commentary critical, historical, and explanatory by F.B. Kaye.* Vol. 1-2. Oxford: Clarendon Press, 1924.
Vol. 2のp.453に記載。
- 6) 欄外書き込みばかりを集めたもので、この全集5冊がこれに充てられている。

(なかい えりこ:元名古屋大学附属図書館)
[NDC9:026 BSH:稀書]